

令和3年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会報告書

【 小中学校「道徳」部会 】

所属名 上北教育事務所

職名・氏名 指導主事 豊川 るみ子

【報告書のポイント】

- ・特別の教科 道徳として全面実施になって3～4年たち、都道府県や市町村などで改めて課題が見られてきた中で、もう一度課題解決と道徳科の授業の充実を図るための研修について考え直す時期にきているため、「研修の在り方」をテーマに協議する。
- ・GIGAスクール構想のもとで、一人一台端末の活用が求められている中、道徳科の研修や授業において、どのようなICTの活用ができるのかを共有することで道徳科の授業の充実につなげる。

実践発表 | 富山県教育委員会「研修の充実について」

(1) 富山県の教育について

富山県 令和3年度 幼・小・中学校教育指導の重点 **ダイジェスト** — 一人一人を見つめ、育てる —

基本事項

- 1 創部工事を生かした教育課程の編成と実施
- 2 学習意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る指導の充実
- 3 知識及び技能の活用等、思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導の充実
- 4 生命と人権を大切にすることを教育の軸とし豊かな心を育てる道徳教育の充実
- 5 自己指導能力を育てる生徒指導の充実
- 6 体力の向上及び健康・安全に関する指導の充実
- 7 特別な配慮を必要とする幼児児童生徒への指導や支援の充実
- 8 家庭や地域社会と連携・協働する学校（園）づくりの推進
- 9 幼稚園、保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携や交流の推進
- 10 教員としての資質能力を高めるための研修の充実

本年の重点

- 【重点1】 **確かな学力の育成**
—「とやま型学力向上プログラム(二期)」の推進—
- 【重点2】 **豊かな心の育成**
—「いのちの教育」を核として—
- 【重点3】 **健やかな体の育成**
—「元気づき育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進—

幼稚園等・小学校・中学校を見通した教育

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎 「基礎」の形成を重視する学習活動の充実 ・基礎を基にできる学習 ◆社会 「社会生活」を軸とした理解を深める問題解決的な学習 ・社会への関心・関与を高める学習 ◆探究 「探究」の過程を通して課題を解決する学習 ・探究のよきよきを促すための指導 ◆表現 「表現」の過程を通して表現力を高める学習 ・表現のよきよきを促すための指導 ◆生活 「生活」の過程を通して生活力を高める学習 ・生活のよきよきを促すための指導 ◆道徳 「道徳」の過程を通して道徳性を高める学習 ・道徳のよきよきを促すための指導 ◆特別支援 「特別支援」の過程を通して特別支援を必要とする児童生徒の学習 ・特別支援のよきよきを促すための指導 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎 「基礎」の形成を重視する学習活動の充実 ・基礎を基にできる学習 ◆社会 「社会生活」を軸とした理解を深める問題解決的な学習 ・社会への関心・関与を高める学習 ◆探究 「探究」の過程を通して課題を解決する学習 ・探究のよきよきを促すための指導 ◆表現 「表現」の過程を通して表現力を高める学習 ・表現のよきよきを促すための指導 ◆生活 「生活」の過程を通して生活力を高める学習 ・生活のよきよきを促すための指導 ◆道徳 「道徳」の過程を通して道徳性を高める学習 ・道徳のよきよきを促すための指導 ◆特別支援 「特別支援」の過程を通して特別支援を必要とする児童生徒の学習 ・特別支援のよきよきを促すための指導

富山県教育委員会 令和3年度 幼・小・中学校教育指導の重点 **ダイジェスト** — 一人一人を見つめ、育てる —

基本事項

- 1 創部工事を生かした教育課程の編成と実施
- 2 学習意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る指導の充実
- 3 知識及び技能の活用等、思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導の充実
- 4 生命と人権を大切にすることを教育の軸とし豊かな心を育てる道徳教育の充実
- 5 自己指導能力を育てる生徒指導の充実
- 6 体力の向上及び健康・安全に関する指導の充実
- 7 特別な配慮を必要とする幼児児童生徒への指導や支援の充実
- 8 家庭や地域社会と連携・協働する学校（園）づくりの推進
- 9 幼稚園、保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携や交流の推進
- 10 教員としての資質能力を高めるための研修の充実

本年の重点

- 【重点1】 **確かな学力の育成**
—「とやま型学力向上プログラム(二期)」の推進—
- 【重点2】 **豊かな心の育成**
—「いのちの教育」を核として—
- 【重点3】 **健やかな体の育成**
—「元気づき育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進—

幼稚園等・小学校・中学校を見通した教育

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎 「基礎」の形成を重視する学習活動の充実 ・基礎を基にできる学習 ◆社会 「社会生活」を軸とした理解を深める問題解決的な学習 ・社会への関心・関与を高める学習 ◆探究 「探究」の過程を通して課題を解決する学習 ・探究のよきよきを促すための指導 ◆表現 「表現」の過程を通して表現力を高める学習 ・表現のよきよきを促すための指導 ◆生活 「生活」の過程を通して生活力を高める学習 ・生活のよきよきを促すための指導 ◆道徳 「道徳」の過程を通して道徳性を高める学習 ・道徳のよきよきを促すための指導 ◆特別支援 「特別支援」の過程を通して特別支援を必要とする児童生徒の学習 ・特別支援のよきよきを促すための指導 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎 「基礎」の形成を重視する学習活動の充実 ・基礎を基にできる学習 ◆社会 「社会生活」を軸とした理解を深める問題解決的な学習 ・社会への関心・関与を高める学習 ◆探究 「探究」の過程を通して課題を解決する学習 ・探究のよきよきを促すための指導 ◆表現 「表現」の過程を通して表現力を高める学習 ・表現のよきよきを促すための指導 ◆生活 「生活」の過程を通して生活力を高める学習 ・生活のよきよきを促すための指導 ◆道徳 「道徳」の過程を通して道徳性を高める学習 ・道徳のよきよきを促すための指導 ◆特別支援 「特別支援」の過程を通して特別支援を必要とする児童生徒の学習 ・特別支援のよきよきを促すための指導

富山県教育委員会 令和3年度 幼・小・中学校教育指導の重点 **ダイジェスト** — 一人一人を見つめ、育てる —

基本事項

- 1 創部工事を生かした教育課程の編成と実施
- 2 学習意欲を高めるとともに、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る指導の充実
- 3 知識及び技能の活用等、思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導の充実
- 4 生命と人権を大切にすることを教育の軸とし豊かな心を育てる道徳教育の充実
- 5 自己指導能力を育てる生徒指導の充実
- 6 体力の向上及び健康・安全に関する指導の充実
- 7 特別な配慮を必要とする幼児児童生徒への指導や支援の充実
- 8 家庭や地域社会と連携・協働する学校（園）づくりの推進
- 9 幼稚園、保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携や交流の推進
- 10 教員としての資質能力を高めるための研修の充実

本年の重点

- 【重点1】 **確かな学力の育成**
—「とやま型学力向上プログラム(二期)」の推進—
- 【重点2】 **豊かな心の育成**
—「いのちの教育」を核として—
- 【重点3】 **健やかな体の育成**
—「元気づき育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進—

幼稚園等・小学校・中学校を見通した教育

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎 「基礎」の形成を重視する学習活動の充実 ・基礎を基にできる学習 ◆社会 「社会生活」を軸とした理解を深める問題解決的な学習 ・社会への関心・関与を高める学習 ◆探究 「探究」の過程を通して課題を解決する学習 ・探究のよきよきを促すための指導 ◆表現 「表現」の過程を通して表現力を高める学習 ・表現のよきよきを促すための指導 ◆生活 「生活」の過程を通して生活力を高める学習 ・生活のよきよきを促すための指導 ◆道徳 「道徳」の過程を通して道徳性を高める学習 ・道徳のよきよきを促すための指導 ◆特別支援 「特別支援」の過程を通して特別支援を必要とする児童生徒の学習 ・特別支援のよきよきを促すための指導 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎 「基礎」の形成を重視する学習活動の充実 ・基礎を基にできる学習 ◆社会 「社会生活」を軸とした理解を深める問題解決的な学習 ・社会への関心・関与を高める学習 ◆探究 「探究」の過程を通して課題を解決する学習 ・探究のよきよきを促すための指導 ◆表現 「表現」の過程を通して表現力を高める学習 ・表現のよきよきを促すための指導 ◆生活 「生活」の過程を通して生活力を高める学習 ・生活のよきよきを促すための指導 ◆道徳 「道徳」の過程を通して道徳性を高める学習 ・道徳のよきよきを促すための指導 ◆特別支援 「特別支援」の過程を通して特別支援を必要とする児童生徒の学習 ・特別支援のよきよきを促すための指導

学校訪問研修等で見られた実態を踏まえ、幼稚園・小学校・中学校の教育内容にそれぞれの発達の段階や特性、課題を明確にしたもの

- ◎重点2 豊かな心の育成
- ①かけがえのない命
- ②人間としてよりよく生きようとする生き方

◎富山県の理念
家庭や地域との関わりのなかで、児童生徒がかげがえのない命を実感し、人としての生き方について考えを深めることができる道徳教育の推進

重点2 豊かな心の育成のための実践として、命の教育講演会と道徳教育推進講演会を夏季休業中に同日開催している。

命の教育講演会

医療従事者、作家、ジャーナリスト等幅広い分野で活躍している方々に講師を依頼し、命をテーマに講演を行う。参加対象は教員だけでなく、PTAと連携し保護者も対象としている。令和3年度はNPO法人鈴木中人氏のZOOMによる講演会を実施。

道徳教育推進講演会

教員を対象とし、大学教授や文部科学省の調査官に講演を依頼する。令和3年度は、聖徳大学名誉教授の吉本恒幸氏の「道徳の授業づくりと評価について」ZOOMによる講演会を実施。

(2) 指導主事の研修について

指導主事等研修会

①参加対象

東西教育事務所、市町村教育委員会、教育センターの指導主事

②研修内容

幼・小・中学校教育指導の重点の共通理解とそれに基づく指導助言の在り方

③演習について

実際に行われた授業の映像を活用している。使用する授業映像は、県内の公開授業の記録と**授業の達人DVD**を活用している。**授業の達人DVD**とは、富山県教育委員会が任命した授業実践に優れた現役教諭である、授業の達人の授業を撮影編集したDVDのことで、教員の授業力向上や校内研修の充実のために全ての学校へ配布しているものである。また、今年度は一人一台端末の本格運用に伴い、ICTの活用についての助言指導が必須であることから、文部科学省の**道徳教育アーカイブ**の授業映像を活用し東京の浅見調査官とオンラインでの研修とした。演習は以下のような3部構成とした。

第1部 浅見調査官からの「指導と評価の一体化」についての講義

第2部 授業映像を視聴し、その場で指導助言を考え、全体で共有

第3部 第2部について、浅見調査官から指導助言の在り方としてまとめの講義

④研修の成果

- ・深い学びへと向かう学習過程の工夫や、発問・問い返し等助言を考える際のポイントが分かった。
- ・講義→授業映像の視聴→講義という研修の進め方によって、授業の見方のポイントが明確になった。

⑤道徳教育アーカイブでの授業映像活用の利点

- ・授業者が講じた手立ての実際を映像で確認することができる。
- ・短時間で、指導法の工夫や発問・授業のポイントがわかる。
- ・教材の提示や工夫、子供の反応がよく分かるため、子供の発言の取り上げ方など適切な手立ての在り方を学ぶことができる。
- ・様々な学年や複式学級、ICT活用、学習形態の工夫等いろいろな例を見ることができる。

※道徳教育アーカイブには授業映像だけでなく、様々な内容項目や教材での指導例、指導案が掲載されているため、さらに活用方法を広げることができる。

2 浅見調査官からの助言

(1) 研修の充実と改善

①対象

研修内容に応じて工夫すること。

◇全教育活動を通じて行う道徳教育と、実現のためのカリキュラム・マネジメント研修

→ 研修主任、道徳教育推進教師、管理職

◇小・中学校それぞれの課題を扱った研修

→小・中学校別

②内容

現状と課題に応じた内容を工夫すること。

③形態

対面かオンライン・オンデマンドか、ハイブリッドなど、それぞれのメリット、デメリットを明確にして決定すること。

(2) 質問に対する回答

Q 限られた文字数で、児童生徒の励みになるよう具体性を持たせつつ、おおくりなまとまりを踏まえて評価をする際に、どのような工夫があるか。

A 道徳科の目標にある学習を取り入れた授業を教師が意識して継続的に行うことによって、子供の学習状況を見取って評価をするのが道徳の評価である。その中で、何か突出した学習状況があればそれを評価したり、継続的に授業を行う中で学習状況や道徳性がどのように成長したかを評価したりすることができる。

資料1

道徳科における児童生徒の学習状況の例

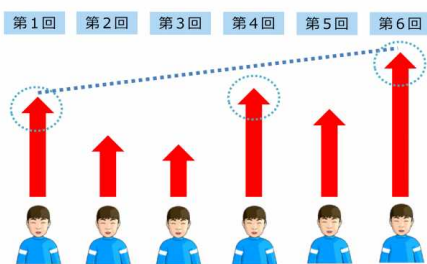
道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習

- ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。 など

独立行政法人教職員支援機構

道徳科の目標にある学習を意識した授業を継続的に行うことで、学習状況を作り出すことができる。

資料2



学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握

独立行政法人教職員支援機構

継続的に道徳科の授業を行うことで、突出した学習状況が見取ることができ、それが評価の対象となる。

パターンA:具体的な授業場面を評価+パターンB:大きくくりなまとまりで評価

常に自分に厳しい目を持っていて、授業では自分を振り返り、反省するような考えも見られました。しかし、それは、今の自分はこうあるべきだという自分をしっかりと捉えている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

何だかちょっと温かい

何だかちょっと勇気づけられる

3 実践発表2 相模原市教育委員会「協力体制を意識した道徳研修」

「職員室で道徳科の会話が増えると、授業が充実するのか」

概要

はじめに

【国が求めていること】

「授業の質的転換を図ってね。その時には、協力体制を整えることが大切だよ。」

〈キーワード〉

○道徳科授業の質的転換

○協力体制の充実

〈材料〉

文科省等における専門家会議資料・学習指導要領

研究内容

【自身の実践等から見えてきたアプローチ】

「中学校の現状として同日同時期に授業を行うことが多く、授業に対する問題意識を持ちづらかったな。」

「まずは、先生たちが授業に対してどのような問題意識を持っているか。子供は道徳科の授業をどう受けとめているのかな。」

〈キーワード〉

○授業に対する問題意識

○子供の授業の受け止め方

〈材料〉

○先生の意識調査 ○子供の意識調査

研究実践

(1) 「先生の意識調査、子供の意識調査の結果」

【先生】

・若手の先生方は指導書に頼って授業を行っている。

・「教材をどのように効果的に活用するのか」について悩んでいるんだけど、そもそも道徳科の特質についても理解が十分できていない。

【子供】

・「小学生の時と同じような内容もあるし、週1でやるとさすがに興味や関心が薄れると思う」という子供の意識に、授業の質的転換の大きなヒントがありそうだな。

〈材料〉

○先生の意識調査結果

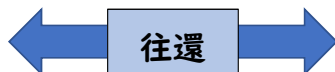
○子供の意識調査結果

(2) 「2つの意識調査結果を踏まえた協力体制の実践」

「協力体制のポイントとして、総括教諭や道徳教育推進教師による相談機能の充実」「それを支える授業の見える化、共有の場」を行ってみよう。

〈材料〉

○授業づくり相談



○授業共有プラットフォーム

4 グループ協議「小中学校における道徳教育の推進・充実にに向けた研修の工夫」 愛媛県の取組「校内道徳教育プチ研修」

研修種別	校内研修（小学校）																						
研修名	校内道徳教育プチ研修																						
対象者	自校の教員																						
研修のねらい	教員の道徳教育に係る指導力の向上を図り、学校教育全体を通じて行う道徳教育や要としての道徳科の授業が充実するよう、職員会や終礼時に10分程度の研修を複数回行う。																						
研修日時	職員会、終礼時の10分間程度（月に1回程度実施） ※担当者、学校の実情に応じて実施する年としない年とがある。																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>自校の道徳教育の推進について</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>学校の教育全体を通じて行う道徳教育について 道徳教育と道徳科について</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>道徳科の目標と内容について 道徳科の指導について（その1 道徳科の学習課題）</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>道徳科の指導について（その2 導入、展開、終末の工夫） 道徳科の指導について（その3 多様な教材を生かした指導）</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>道徳科の指導について（その4 発問の工夫）</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>A教諭の授業研究から学んだこと</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>B教諭の授業研究から学んだこと</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>道徳科の評価について（その1 評価に関する基本的な考え方） 道徳科の評価について（その2 評価文例）</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>C教諭の授業研究から学んだこと</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>ICT活用時代の道徳科について その1 ICT活用時代の道徳科について その2</td> </tr> </tbody> </table>		実施月	内容	5月	自校の道徳教育の推進について	6月	学校の教育全体を通じて行う道徳教育について 道徳教育と道徳科について	7月	道徳科の目標と内容について 道徳科の指導について（その1 道徳科の学習課題）	8月	道徳科の指導について（その2 導入、展開、終末の工夫） 道徳科の指導について（その3 多様な教材を生かした指導）	9月	道徳科の指導について（その4 発問の工夫）	10月	A教諭の授業研究から学んだこと	11月	B教諭の授業研究から学んだこと	12月	道徳科の評価について（その1 評価に関する基本的な考え方） 道徳科の評価について（その2 評価文例）	1月	C教諭の授業研究から学んだこと	2月	ICT活用時代の道徳科について その1 ICT活用時代の道徳科について その2
実施月	内容																						
5月	自校の道徳教育の推進について																						
6月	学校の教育全体を通じて行う道徳教育について 道徳教育と道徳科について																						
7月	道徳科の目標と内容について 道徳科の指導について（その1 道徳科の学習課題）																						
8月	道徳科の指導について（その2 導入、展開、終末の工夫） 道徳科の指導について（その3 多様な教材を生かした指導）																						
9月	道徳科の指導について（その4 発問の工夫）																						
10月	A教諭の授業研究から学んだこと																						
11月	B教諭の授業研究から学んだこと																						
12月	道徳科の評価について（その1 評価に関する基本的な考え方） 道徳科の評価について（その2 評価文例）																						
1月	C教諭の授業研究から学んだこと																						
2月	ICT活用時代の道徳科について その1 ICT活用時代の道徳科について その2																						
<p>〈研修の工夫点（内容や方法）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1回の研修時間を短くし、複数回に渡って実施することで、先生方が集中して研修に臨むことができるようにしたこと。 ○ 先生方のニーズや学校の課題に応じて、研修内容を焦点化したこと。 ○ 研修内容を資料にまとめることで、研修後も学びを振り返ったり、指導改善に活用したりできるようにしたこと。 <p>〈研修の成果〇と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修内容を焦点化することで、先生方の内容理解がスムーズに進んだ。 ○ 先生方のニーズや学校の課題に応じた内容にすることで、多くの先生が目的意識をもって主体的に研修に参加できた。 ○ 研修後は、保護者や地域等にも自校の道徳教育に関する取組をホームページや学校使用を通じて積極的に情報発信していくことで、家庭や地域と一体となった道徳教育の推進につなげることができた。 ● 研修を短い時間で行うため、取り上げたテーマについての意見交換をする時間を設けることができず、学びを十分に深められなかった。 ● 学校全体を通じて行う道徳教育の充実のために、日々の研修とともに、先生方が同じ目標に向かって実践することができる体制づくりをより強化していく必要がある。 																							

(1) ポイント

- ① 職員会や終礼時に10分程度の研修として行う。
- ② 月1回程度
- ③ 道徳教育推進教師 または 研修主任 担当
- ④ 先生方のニーズに応じた研修計画

(2) エ夫点

- ① 集中して研修に臨むことができる。
- ② 研修内容を焦点化することができる。
- ③ 資料を綴じて、足跡として学びを積み重ね、いつでも振り返ることができる。

4 飯塚調査官からの助言

(1) 研修の在り方について

① 研修の形態について

○ 様々な団体がどのように連携をとっていくかがポイント

◇ 連携の例

都道府県教育委員会×市町村教育委員会

教育センター×地域の道徳教育研究会

小学校×中学校

中学校区の小学校

地域・家庭×学校

◇ ICTの活用

- ・ 参集型の研修後に、持ち帰り実践した結果をチャットや掲示板でさらに交流、意見交換を継続
- ・ チャットや掲示板を活用して、授業等の資料の共有
- ・ 参集型の研修には各校1名参加し、オンラインで他の先生方も学校で研修
- ・ 授業動画等を他校の先生方と共有

②研修の内容について

○内容項目道徳的諸価値の理解に関する研修の充実を

◇都道府県の取組例

- ・研修のねらいを「内容項目の解釈を生かして、子供の思考の広がりや深まりを促す板書を考える」とし、内容項目を柱にしながら授業研修を行っている。(富山県)
- ・重点内容項目を扱った道徳科の研究授業(広島県)

◇内容項目道徳的諸価値の理解

- ・学習指導要領解説には、内容を表す言葉、キーワードが設定
- ・内容項目道徳的諸価値を理解していると発問や問い返しも適切

(2) 道徳科におけるICTの活用について

StuDX Style (スタディーエックス スタイル) 文部科学省

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index2.html>

13

小学校・第6学年・道徳科・主題名「真の友情」 B 友情、信頼

育成を目指す資質・能力

鳥取県提供

友達の立場や気持ちを理解し合うことで、互いに高め合うような友情を深めていこうとする心情を育てる。

ICT活用のポイント

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うために、デジタルホワイトボードソフトを活用することで、自分とは異なる様々な考えに出会い、道徳的価値について多面的・多角的に考えられる。

事例の概要

①導入：学級の実態を知る。

行事の後：「友情を深めるために大切な事は何だろう。」

②展開1：「ロレンゾの友達」を聞き、自分は、誰の考えに近いのか考える。自分の意思を明確にする。

③展開2：「三人は、なぜ木の下で話したことを言えなかったのか」について考える。

④終末：自分自身を振り返る。「友情を深めるために大切な事は何だろう。」(再度問う)

◎「ロレンゾの友達」(出典：読み物資料とその利用)を読むことを通して、友達のためにするべきことを話し合う3人の思いや考えについて、自分事として考える。

◎学習支援ソフトに、プレゼンテーションソフト、デジタルホワイトボードソフトの課題を準備する。

・最初と最後の記録はプレゼンテーションソフトに行い、クラウド上に保存

・意思決定：デジタルホワイトボードソフト

・「友情を深めるために大切なこと」授業前、授業後のアンケート比較：アンケート機能

①プレゼンテーションソフトを使用し授業前の価値への捉えを記録する。

(授業後にも同じ問いをすることで、授業後の価値の変容の自覚へつなげる。)

②デジタルホワイトボードソフトを使用し、自分は3人のうち、誰の考えに近いのかを考えながら付箋に意見を書き、貼り付けていく。

次に、グループの友達の考えを読み合い、共感すること、もっと詳しく聞きたいこと等をグループのプレゼンテーションソフトに書き込むことで、自分の考えを整理する。

③中心発問に関しては、自分の考えを明確に持った上でグループで話し合う。

④様々な考え方に触れた後、再度、「友情を深めるために大切なことは何か」について問うことで、考えを深める。

⑤振り返りとして、今日の時間を通して分かったこと、考えが変わったこと、自分への気づき、これからの自分について等、プレゼンテーションソフトに記録する。

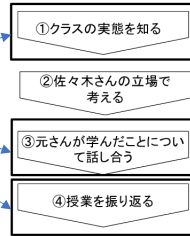
○デジタルホワイトボードソフトの活用

○グループごとに付箋に自分の考えや思いを入力、共有

○付箋は無記名

14

- ファイル共同編集機能を活用
- 自分の考えを可視化することで議論の活性化を図る
- 黒板で行っていた活動をICT端末を利用することで時間短縮につながる
- 振り返りをデータとして保存することで、評価資料や、生徒自身の振り返りとして活用できる



事例の概要

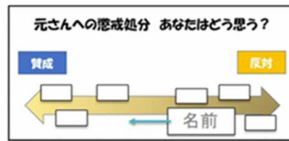
- ◎生徒は事前に資料「二通の手紙」(出典：私たちの道徳)について読んでおく。
- ①導入では、アンケート機能を使い、きまりに対する考え方や普段の行動について共有する。
- ②きまりを守らず、幼い姉弟を動物園に入場させたことで、姉弟の母親の感謝の手紙と上司からの懲戒処分の手紙を受けた元さんを見ていた佐々木さんの心情を考える。
- ③共同編集機能を活用し、懲戒処分への賛否を、矢印の線上に表し、それぞれの考えを話し合う。また、「元さんが学んだことは何か」について話し合う。
- ④授業を振り返る。最初に矢印の線上で表した懲戒処分への賛否について再考して表示し直し、授業で考えたことを記入する。

中学校・第3学年・道徳科・主題「きまりを守る」C 遵法精神、公德心②

①【導入でアンケートに回答し、結果を提示】



②【自分の立場を明らかにする】



ファイルの共同編集を可能な状態にしておけば、テキストボックスで自分の名前を記入し、矢印の線上に表示できる。

① 導入におけるアンケート機能の活用

・これまで授業の前に実施していた事前調査を、アンケート機能を使うことで、授業の中で行うことができる。集計の手間も省け、リアルタイムで結果を提示できる。

② 展開における共同編集機能の活用

・話し合う前に自分の立場を明らかにすることで、話し合いでは他の生徒の考えと自分の考えを比べることができる。また、話し合いを通して、自分の考えを再考することになる。

③ 終末における画面共有機能の活用と保存

・最後の振り返りを入力し、教師が生徒の画面を提示して紹介することができる。
・授業ごとの振り返りを個別にデータに残すことで、ポートフォリオとしての役割を果たし、評価の資料とすることができる。教師も生徒も学期末などに授業の振り返りを見直すことで、生徒自身の学びのあとや成長を感じ取ることができる。

【活用したソフトや機能】 アンケート機能、共同編集機能